

子どもたちは未来へ生きる

イラストの木の上に3人の子どもがいる…。この絵は以前、ある母親が描いた絵。いつも子どもの心に寄り添っていた彼女は、いつも「お母さんの心」でいっぱい。いつも「お母さんの匂い」がした。



でも人間の世界では、ちょっと浮いていた感じ。それが素敵だった。彼女はおかしい人間たちがつくった社会で、子どもたちの心が潰されていくことを、しきりに嘆いていた。彼女の描く絵にはやさしさがあつた。いつも子どもの近くにおいて、ただ子どもを見て笑っていた。

子どもたちが無意識に描く「らくがき」。彼女は、らくがきを見ては、顔をほころばせ、いとおいしい、いとおいしいと言っていた。らくがきは、子どもたちの心。らくがきには、ピュアな子どもたちの心の本質がある。が、子どもたちは、いつしからくがきを描くことをやめる。親は子どもに上手く描くことを望み、子どももだんだん「大人が喜ぶ絵」を描くようになる。

お母さん大学の基本テキストである『ブンナよ、木からおりてこい』(水上勉作)の巻末にある「母たちへの一文」の中にこんな一節がある。

「子どもがよりぬきでたい、誰よりえらい人間になりたいと夢を見、学問にも体育にも実力を発揮し、思うように他の子をしのでゆくことの裏側で、とりこぼしてゆく大切なことについても、いっしょに考えてみようと思った」。

子どものらくがきも、子どもの純粋な夢も、大人になるにつれ、次第に消えていく。それが今の教育であり、社会だ。

木の上にいる3人の子どもたちは、風を感じながら、何を思っているのだろう。私たち大人は、目先のことでいっばいだけ、子どもたちはもっと遠く、もっと深く、見えない未来を見つめているのかもしれない…。

私たち母親は、未来を生きる子どもたちの邪魔をしてはいけない。余計なことをせずに、ただ黙って祈るだけ。黙ってられないお母さんは、子どもに夢を託すのではなく、自分自身の夢を描こう。そうすればお母さんは、子どもの邪魔をしなくなる。

大切なことは、お母さんが夢を描き、夢に向かっていく姿を、子どもたちに見せること。それが、子育てだ。母親は、夢に向かっていく中で、その先にある大切なことに気づくはず。

本当に大切なことは、自分のすぐそばにある。その大切なものを見失わないようにしたい。(編集部)



SPRING

人間らしさって、何だろう？
なぐんで、考えているのは人間だけ。
ライオンは
ライオンらしさについてなんて
ぜったい考えてない。
気持ちいい風、吹いてるよ！
おいでよ…。

この絵を見て感じる、あなたの思いを、「コトバ」にしてみてください。それが、未来のわが子へのメッセージにつながります。私たちとあなたで世界に一つしかない「お母さん業界新聞」をつくきましょう。



題

一年一組

なまえ

子どもがお母さんを成長させる

てくれた。小さなスプーンで、お釜からお茶碗にごはんを一生懸命についでくれた。

できることが、日に日に増えていく。生まれたての「お猿さん」から、ウゴウゴ動く「イモムシ」になり、少し前までは「小怪物」のようだった。「しゅーい、しゅーい」って、じゃがいもを切っただけでママを褒めてくれる。ママよりもあなたです。しゅーいのは、どんだん人間になってきた。



○月△日 ゴッドハンド

ハンドパワーというように、人の手にはいろんな力がある。私の今、一番の癒しの手は娘の手。仕事が終わる、自転車で帰宅中。後ろに乗っている娘が背中の手を当ててくれる。本人はふざけてやっているのだけれど、小さい手がついてきた。仕事は疲れた(腰の痛み?)もやんわりとする。祖母が亡くなる前、よく遊びに行っていた。あるとき、何気なく手をさすっていたことがあった。特に気にしてなかった。



たけれど、母に「彩ちゃんの手を握ってくれてね」と、うれしそうに話してくれたよと言われた。手を握ったり、触れたりすることが、こんなにも人にぬくもりを与えるのだということを知った。

お金を払って受けるマッサージとは違う。すぐにただでできる癒しの方法。ゴッドハンドには誰もなれるのだ。私にとつてのゴッドハンドは、かわいかわい娘の手。私も誰かのゴッドハンドになれるかな? 今度実家に帰ったら、久々に肩もみでもしよう。

○月△日 私を変えてくれた娘

ずーっと人前で話すのが苦手でした。今でも覚えていますが、小学校1年生のとき、前に立つただけで泣いていた私。ずーっと人の目ばかり気にしていました。親戚の家で寝るときも「きをつけ!」の姿勢で正しく寝ていました。祖母に「彩ちゃん、寝相がいいね」と言われていましたが、それは、周りを痛いくらい気にしていたからです。

今も私の心の中にいます。臆病な私。人の目を気にしてしまふ私。もちろん仕事で営業職になったので、そこから得られた経験は大きい。でも本当の意味で、私の心ときほくしてくれたのは娘です。どんな私でも無条件で愛し

てくれる娘。どんなに格好悪くても、どんなにマイナスなときでも、そのままのママが好きだよって、いっばいの愛情を向けてくれる。

今の私しか知らない方には、天真爛漫な娘を見ると、私の子どもの頃もそっくりだったんだらうねって言われます。でも実は違う。思いきり笑ったり、歌ったり、踊ったり、いいじゃん、やっちゃいなよ、もつと生きることを一緒に楽しもうよって、2歳の娘を見てみると、そう言われているような気がします。

「ちようしよこさく」と呼ぶと、「はーい」と元気に返事してくれる娘。あなたに出会えて本当に良かった。

○月△日 規格外

今日、イチゴ農家の方から、それはもう立派なイチゴをいただきました。「こんな! いんですか?」と言うと、「規格外だからね」と…。イチゴのつぶつぶが一つでも取れると、規格外ということになるそうです。

なんだか変な世の中です。生きていくもので、同じものは何一つないのが世の中。同じ形、大きさ、見た目がきれいに、きちんと揃えられる。それが最高だといわれるイチゴたち。人間も個性が大事っていうけれど、ちよつと突出すると嫌がられたりする。むちゃくちゃおいしいよ。立派なイチゴたち。私はそんなあなたたちが、大好きです。

